

## 待降節第3主日の説教

金 大烈 神父 2009年12月13日(日)

### 《私達はどうすればよいのですか》

おはようございます

今日洗礼者ヨハネの事が話されています。(福音ルカ3・10~18) 先ず、群集が洗礼者ヨハネの所に行き、「わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねます。その後、自分の民族に税金を取り立てローマの政府に渡す役割の人、それによって、多くの利益を貰い金持ちになっている徴税人も同じ質問をします。「わたしたちはどうすればよいのですか。」そして、時代が変わっても変わらない権力の集団である軍人の一人が洗礼者ヨハネに同じ事を質問します。「わたしたちはどうすればよいのですか。」

2000年の時が流れて、今の時代を生きる私達にとってもあてはまる質問ではありませんか。時代には関係なく、人間が集まり群れを作って生きている所には困難や迷い、彷徨いがあるようです。

ですから「どうすればよいのですか」と、何か息苦しい質問をしなければならないのが、世の中の姿だと思います。

とにかく、質問された時に、洗礼者ヨハネは簡単に答えます。表現は違っても同じ内容、同じ意味の答えを出しています。「持っている者は持たない者に分けてやれ」「正しく儲けて正しく使え」「だましたりしないで人間らしくやれ」と言ったのでした。この質問に対しての答えをどう思いますか。私達にも、いつも考えさせる質問であり、答えだと思います。

さあ、皆様、いつくしむの“慈”と、そして、よいの意味を持っている“善”という字がありますね。この二つの字が組み合わされて一つの言葉になります。それは何ですか。“慈善”、“慈善”ですね。“慈善”はやはり施す事です。慈しみある善い心で施す事を“慈善”と言います。

大体私達は、「施し、施す」この言葉を聞くと思い浮かぶのは物質的なことです。「私には余裕がない、持っているものがあれば、お金があれば、“慈善”も進んで出来るが、今は自分の事でいっぱい余裕がありません。やりたい気持はあるけど本当にこれは出来ない。」と言うのが不幸にも私達の日常の姿じゃないかと思えます。しかし、皆様、「施し、施す」という言葉を使う為には、物質的な物の問題ではなくて心の問題だと思います。暖かい一言、暖かい眼の色から始まるのが慈善です。もし私達に何か“慈善”をしようとする心があれば慈善は既に始まるんです。

今日の福音の内容は2000年前の洗礼者ヨハネを通して、日々色々な場面に出会って今を生きている私達に語っている話です。本当にどうすればいいのか、どうすれば自分らしく、人間らしい生き方をすることが出来るか、簡単に出来そうでも中々難しい気持で私達は生きています。

一番身近な家族の関係、社会の関係、政治に対する関係、物を見る関係、心と心の交わりの関係、それらにもはたして正しい答えを探し難いのが今の私達の姿じゃないでしょうか。

洗礼者ヨハネの言葉を心に刻みましょう。自分に聞いてみましょう。「もし、私が二つ持っている持っていたら、一つも持っていない人に一つ上げればいいじゃないか。」「これがなくても私は死ぬ事がないのに何故この様に執着しているのか。」結局、私達には、こういう心を持とうとする自分との戦いが要求されていると思えます。

皆様、がっかりしている人々、落胆している人々、いわゆる絶望している人々が一番力をもらえる姿は何だと思いますか。

お金を沢山持っている人でも色々な能力を持っている人でも高い地位にいる人でもありません。たまにテレビの放送をみて驚く時があります。「今、あなたの体につけている物、全部計算したらどの位になりますか。」「私、申し訳ないけど1億5000万円位にはなるでしょう。」このように羨ましがらるべきこととして話している馬鹿なテレビ番組をみて戸惑います。

このような番組を見ている子供達がどんな夢を持つことになるのでしょうか。結局なんとかしてお金を儲けなければならないと思ひ、お金が全ての幸福の一番の条件と基準になると思ひのは当たり前だと思ひます。その様な環境の中で生活している子供達に、皆様は何を教えるのでしょうか。何を教える事が出来るのでしょうか。

皆様、がっかりしている人、希望を失っている人々が本当に力を頂くという姿は、希望を持って生きている人々の姿に触れることです。「ああ、この人は何か希望を持って生きている、その事によって喜んでいる、どんな難しさの中でも笑顔が見える。」そういう役割、私達はお互いにしなければならないと思ひます。私達はしかたなくがっかりする時が沢山あります。色々な事によって希望を失う場合もあります。しかし、この共同体、家族、お互いに励まし合いながら力を頂きあいましょう。「あの人もあのような事にぶつかっていても希望を持って生きているのだ、私も頑張ろう。」そういう励ましによって、私達は正しい道を歩めると思ひます。ですからある詩人は、「人間が希望にならなければならない世界に私達はすんでいます。」と言ひました。どういう意味ですか。美しく生きている人を見ながら、私も人間らしく生きていたいと希望が生じる事です。私達はお互いに希望になって欲しいです。希望になってお互いに励まし合い、色々な難しさがあっても乗り越えられるその勇氣をお互いに捧げあう生き方が必要です。

最後に面白い話をしましょう。一頭の乳牛がいました。そして一頭の豚がいました。豚が乳牛に何か文句を言ひます。「おかしいじゃない、何故人間はお前にはすごく優しいのに、私にはいつもひどいよ、なんだろう。」と言ひます。それを聞いた乳牛はよく考えます。そして答えました。「よく分からないけど、私は生きているうちに善い事(牛乳を提供)をしていると思ひうけど、あなたは死んでから肉を上げるじゃないの？ 私は生きているうちに善い事をしているからこのように優しくされるのだと思ひうよ。」面白い話なのですが、私達も生きているうちに何か善い事をするべきだと言ひうメッセージだと思ひます。

まだ、二週間あります。今週は近づいているイエス様の降誕に喜びながら胸はずむ思ひで、イエス様を迎える準備をしましょう。

ありがとうございました